

地名の由来などがわかって面白い本だった。環一～環八がどこを指すのかの疑問も解けた。丸の内が三菱村である理由もわかった。

一五九四（文禄三）年、暴れ川「坂東太郎」の異名をもつ、利根川の流路を変更するための大工事に着手した。長い工期を経て、利根川の本流が江戸から銚子へ注ぐように変わったのは、一八〇九（文化六）年のことだった。

これは「**利根川の東遷**」といわれ、江戸方向に流れる水量を減らすことに成功した。

関東の水運は急速に発展し、川岸には多くの**河岸**（かし）が成立した。河岸とは荷や人が乗り降りする、河川の港である。江戸の河岸は、将軍用の御上り場（おんあがりば）、諸大名の藩邸の堀に面した物揚場（ものあげば）、町人の利用する舟付場（ふなつきば）の河岸の三つに分類された。

米蔵の前ということで**蔵前**とよばれ

例えば、**馬喰町**は、牛馬の売買・仲買を行う**幕府博労頭**が住んでいたことに由来し、元は**博労町**と書いた。

埋立地（築いた地）という意味で**築地**と呼ばれた。

一八六八（明治元）年、明治天皇は東京に行幸し、**江戸城**を居城に定め、**東京城**と改称した。その後、**皇居**、**宮城**となり、戦後は再び、**皇居**とよばれている。

計画的リサイクル都市江戸の下水処理

江戸幕府は、当初から上下水の処理を講じていた。まず、上水道の確保のために大規模な工事を行った。また、一六五五（明暦元）年、それまでは堀や空き地に捨てていたゴミを、隅田川河口の**永代島**へ船で運んで処分することを決めている。

また、江戸へ供給する農作物を生産していた江戸郊外の農家は、江戸市民の排出した糞尿を購入し、有機肥料としていた。江戸市民は**糞尿を売り**、**野菜などを購入**するリサイクルのシステムができていたのである。

生活排水は、家々の清から「小下水」・「大下水」へと流され、河川に放流されていた。ゴミが河川に流れ出ないように、杭を打ち込み、定期的にゴミや、溝の底をさらうような手入れを施していた。

この点で**江戸は、ヨーロッパの都市よりもはるかに清潔な都市**であり、訪れた西洋人は、

その清潔さに息をのんで賛嘆している。

関東地方は、富士山・箱根山・浅間山などの噴火によって、大量の火山灰が広く覆うように堆積した。

その色は、鉄分を非常に多く含有するために酸化し、赤褐色となったために赤土と呼ばれた。関東地方の台地や丘陵部、河岸段丘に分布し、関東ローム層を形成している。

赤羽 赤土を材料に土器を製作する職人が多く住んでいたため、赤埴と呼ばれたのが町名の由来。

大田区羽田の由来は、赤土の田という埴田(はにだ)であるという。

大名上屋敷郡、大名中屋敷郡、大名下屋敷郡

~~~~~

上屋敷は主に藩主とその妻子など用、中屋敷は主に隠居や世継ぎなど用、下屋敷は国元からの荷を揚げるため主に水辺につくられた蔵屋敷とあります。

~~~~~

江戸城

本丸は、「表向(おもてむき)」が幕府の行政の場所、「中奥向(なかおくむき)」は将軍公邸、「大奥」は将軍の私邸として内部はわかれていた。「中奥向」は女人禁制、「大奥」は将軍以外は男子禁制だった。

二の丸は、世嗣(よつぎ)が住んだ場所である。大奥で育てられた後、ここに移された。

西の丸は、将軍が隠居したのち、住んだ所である。

城を直接囲む内堀(濠)に対し、「の」の字型に右まわり渦巻状の外堀(濠)をつくった。

そして、堀の横にはいくつもの枳形門(ますがたもん)が置かれた。枳形門とは、二つの門を直角に建て、第一門(高麗こうらい門)と、第二門(渡櫓わたりやぐらのある門)の間に枳形の空き地を設け、周囲を石垣や建物でかためた、警備堅固な城門の形式である。城門には警備の番所が置かれたので

「見附みつけ」ともよばれた。よく、「三十六見附」といわれるが、これは実数を示すのではない。多数を示す縁起のよい数を意味しているだけらしい。外堀はぐるりと一回りしておらず、神田あたりでは町人地と武家地をわける堀はなかった。当然ながら、内堀の城門の警護は厳しかった。

現在、枳形門の姿をよくみることのできるのは桜田門と和田倉門、それに大手門である。

隅田川から神田川（外堀の一部）に一人ると、浅草門、筋違構門、小石川門などがあり、橋がかかっていた。そして、牛込門、市ヶ谷門の先までは外堀が残っている。そこから四谷駅近辺の四谷門、喰違門までは埋立てられ、外堀公園や、なぜか上智大学のグラウンドなどになっている。

弁慶堀は現存しており、赤坂門は、赤坂見附として、交差点の名称と地下鉄の駅名に名残をとどめている。そこからは、溜池をはじめとして外堀は完全に埋立てられ、**外堀通り**となる。

虎ノ門を過ぎ、幸橋さいわいばし門から北へ曲がっていた外堀は、首都高速道路や外堀通りとなっている。

両国橋 下総しもうさ国だった本所・深川と武蔵国(むさしのくに)の江戸にかけたのでこの名がついた。

東京電力の荒川専用線、東電蔵前橋があるが、立ち入り禁止となっている。



一方、金座の地名は残っていないが、その場所に日本唯一の紙幣発行銀行である日本銀行がある。銀座の地名も残っていない。

東京二三区と政令指定都市の区の違い

政令指定都市には、東京と同じように「区」が設けられているが、これは**行政区**であり、特別区である東京の二三区とは異なる。**特別区**とは地方自治法により、東京都だけに設けられた特別地方行政団体のことを指す。

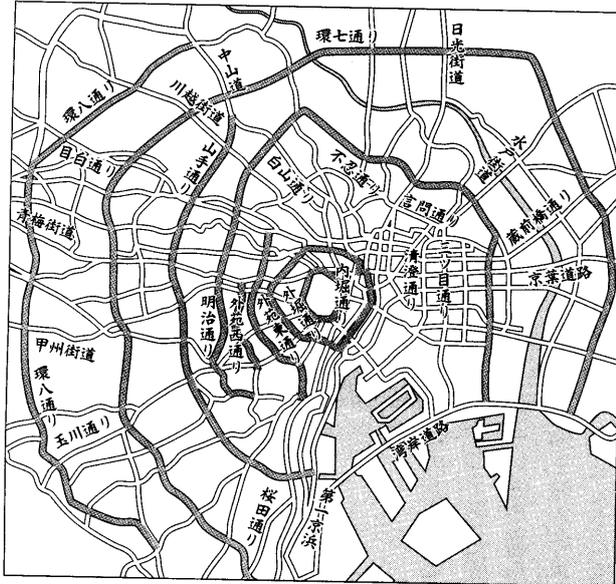
これに対して横浜市や大阪市などの行政区は、市組織の一部である。これら行政区の区長は市長が任命するが、**特別区の区長は公選**により選ばれる。また、特別区では公選議員

で構成される区議会が設置される。

特別区は、基本的に市町村の基礎的地方公共団体と同じ自治権をもつが、東京都の一体性を確保するために一部制限されている。そのため、自治権の拡大を求める声が発足当初からある。また、二〇〇〇（平成一二）年には、清掃事業が各区に移管されるなどの都区制度改革が実施された。

また、一八八六（明治一九）年、コレラが流行すると、江戸時代より市内に飲料水を供給していた玉川上水の水質改善を求める声が起こり、一八九八（明治三一）年、玉川上水の水を処理する淀橋浄水場が設けられた。

東京の環状道路



現在、都内の一般道路で、きれいな環状の形が成立しているのは、約六〇年かけて一九八五（昭和六〇）年に全線開通した環状七号線（環七）だけである。

環状八号線（環八）は、平成一八年に全線開通したが、環状とはいえない、都の西側のみの半円状の道路である。

環一から環六はどこにあるのか

環一は内堀通りのことで、ほぼ皇居の内堀の外周をまわる。途中で靖国通りと合流し、皇居外苑のなかも通っているもっとも中心を結ぶ環状道路である。

環二は外堀通りであり、皇居の外堀の外側を通っている。新橋駅から溜池、赤坂見附、四谷見附、そして神田川に沿い、昌平橋を渡って東京駅八重洲口を抜けるコースを取る。

環三には外苑東通りが該当するが、文京区小石川の播磨坂（約五〇〇メートル）には、その名残が残っている。外苑東通りから南は、

一九九三（平成五）年にようやく開通した六本木トンネルを抜け、麻布トンネルを経て一ノ橋方面に抜けるルートである。

環四は外苑西通り、**不忍通り**などがあてられる。

環五とは**明治通り**のことで、北端部の飛鳥山と王子駅をはさんで東西をつなぎ、ほぼ環状に都心の外周を結んでいる。経路は入り組んでいる箇所を残すものの、東品川から滝野川二丁目に至る西側と、王子二丁目から新木場までの東側がある。

環六は俗にこの呼称が用いられることもある**山手通り**だが、西半分で途切れてしまい、環状にはなっていない。

明治になると、薩摩・長州など諸藩の屋敷地になったが、その後、**丸の内**一帯は**陸軍用地**となった。そして、一八九〇（明治二三）年、**陸軍省**より岩崎弥之助の三菱社に払い下げられた（46 ページ参照）。

当時は雑草が生い茂っていたため、三菱ヶ原といわれるようになっていた丸の内は、一八九四（明治二七）年から、英国人建築家 J・コンドルの指導のもとで、ロンドンの煉瓦街をモデルに開発がすすめられ、明治末期までに、馬場先通り約二〇〇メートルの間に

「一丁いっちょうロンドン」と呼ばれる赤煉瓦街を完成させた。